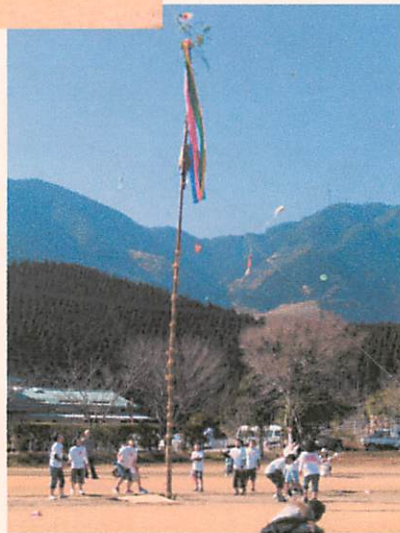


子どもも柱松



平成19年度
3・4学年

柱松の歴史

柱松の起源

智佳

柱松の起源について説明します。

あるせつには、リゅうにこまった人々がリゅうの口に火を投げ、たいじしたことをヒントにして、九きたせつもあります。

他にも戦争で、ひめ様かが死んだ、なぐさめや、天の神に元気ですよということを伝えたいということから始まったと、している国もありました。柱松は、昔からあったんですよ。その他、正月に火まつりを、するところもあります。

みなさんは、京都の大文字焼きをしていますか。実は、あれは、柱松の一種とも、いわれているんですよ。なせ、なのか分かりませんが、私は、火を使うからかなあと思っています。

柱松はどこから伝わったか

堀見

柱松はどこから伝わったのでしょうか。

実は、柱松は、中国から伝わったものなのです。昔の日本の人々は、かりをしていました。人々はえものをさがして住む所を点々とかえながらしていました。しかし、このようなくらし方をしていると、冬になってえものがとれなくなると、大へんにこまってしまいました。そんな時代の日本に、中国から、米が伝わりました。このことにより、日本の人たちは、米を育てることでも食べ物にこまらない生活をする事ができるようになりました。お米は、水や土、天気により実りがかわります。このことから日本の人々は、自ぜんの中に穀類がいろいろとしんじょうになりました。柱松は、お米がよくとれたことへの感しゃやいのりをこめて行われる行事として中国からお米が伝わりると同時に日本に入ってきました。

柱松の はじまり

大空

柱松は旧暦の八月十五日にあるお祭りです。なぜ八月十五日にあるお祭りをするのかという、その日が、一年で一番月がよく見えるからです。昔から月は、自然の代表として、親しまれてきました。自然の中にネ申様が、いると信じてきた日本の人々にとって、月は神様そのものでした。そのお月様がよく見える秋の最中の八月十五日に、その1年の作物の感しゃと、来年へのいのりをこめて行われるようになりました。

八月十五日のお祭りは、火祭りだけでは、ありません。みなさんよく知っているすもえ、つなえ、きおどりもあります。おどりは市木では松の下ささおどりが、ありますよね。

この祭りは別に特別なきじつのは、伝はうの場ではなく、神への感しゃや、地区のまとまりのために行われてきたということですよ。

市木柱松の歴史

四年 貴之

市木の柱松の歴史について説明します。

市木の柱松は、昭和の後半に、郡司部で一つ、平田・海北・古都・中福良に一つ、石波に一つ、藤に一つありました。市木では、合計四つも行われていました。

でも、今では、藤方式で行われる市木柱松が一つになってしまいました。

なぜ、柱松が少なくなってしまったかと言うと、多くの若い人たちが、市木をはなれてしまったからです。今行われている柱松は、十六年前に、川崎永伯さんが呼びかけられて、また行われるようになって、今にいたるそうです。今の柱松は、見せ物や観光用ではなく、古いしきたりを守って行われています。

「市木に活力がなくなったら、柱松は終わる。」と言われてるように、市木の人々が力を合わせて行われる祭りです。

子ども柱松
活動内容

【活動名】

子ども柱松の活動全体の流れ

【執筆者】

いゆうたろ

1. 大將軍を決める.
2. 穴をほる.
3. 木を切りにいく.
4. ガリ又を作る
5. 手松を作る
6. ささおどりの練習
7. 柱柱をたてる練習
8. 柱柱を作る
9. 手松を投げる練習
10. ぎ式を決める
11. 広告を作る
12. 本番

【使う道具】

【活動名】

大將軍を決める。

【執筆者】

梨亞

1. 大將軍は、やりたい人がする。

子ども柱松では、3人だったけど、ふ、つうの柱松は、1人です。

2. 大將軍について。

大將軍とは、柱松のリーダーで、人々の役割を決める人です。

その年のせき人者でもあります。

3. 大將軍の役割

① 木を切りに行く。

木を切る。

木を切、て持、て帰る。

カリ又をと、て柱松を立てる。

たてる時。

② たおれそうな時は、カリ又の人やロープ役の人に指示。

例

〇〇カリ又、北に〇歩動け!

北のロープを引、は、て下さい。

たおれないか、4方向からかくにんする。
次の行動にうつる時。

【使う道具】

【活動名】

【執筆者】

大將軍を決める。

梨亜

③ 柱松当日の進行を行う。

① まず、みんなでカリ又の後ろにならんで、大將軍がはじめの言葉を言う。

② 大將軍が鐘を鳴らして「カリ又につけ!」と言う。

③ 「1番カリ又行くぞ!」と言って、1番カリ又と、いっしょに鐘鳴らしの人は、柱松の前に立って、かけ声をかける。

④ 2番・3番カリ又が柱松についたら、かけ声をかけながら、4方向からたおれなにかかくにんする。もしたおれていたら、「1番カリ又北に0歩動け!」と言います。

⑤ 柱松が80°~90°までたったら、かけ声を、「エイヤー-エイヤー-エイヤー-」にかえる。

⑥ たったらかけ声をかける。

⑦例

大將軍 他の人 大將軍 他の人 大將軍
(たったか? たったぞ! 本当か? 本当だ! たおれないか?)

他の人
当たり前だ!)そして、鐘を30回鳴らします。

【使う道具】

【活動名】

大將軍を決める。

【執筆者】

梨亞

鳴らし終わったら、「かり又をとれ!」と言います。

⑦ 毘踊りの準備。

⑧ 踊り終わったら、手松投げの準備。

⑨ 毘踊りをした位置にもどって、太鼓の音が聞こえたら、大將軍が前に出てきて、「エーイトナー・トナー」のかけ声に合わせて、投げで、スタート。

⑩ 手松投げは、10分間。

⑪ 10分間で1番最初に入れた人が1番火。

⑫ 入らなかった人は、かごを下げて、登って入れます。

⑬ みんな入れ終わったら、起立して、大將軍が最後の言葉を言って、終わりです。

【使う道具】

【活動名】

穴ほり

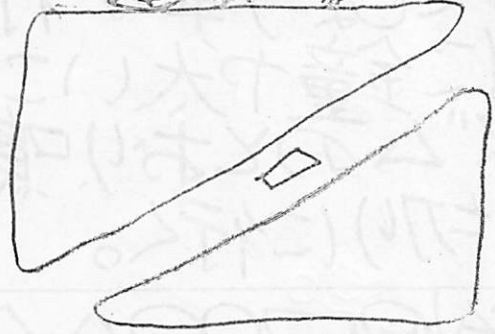
【執筆者】

堀見

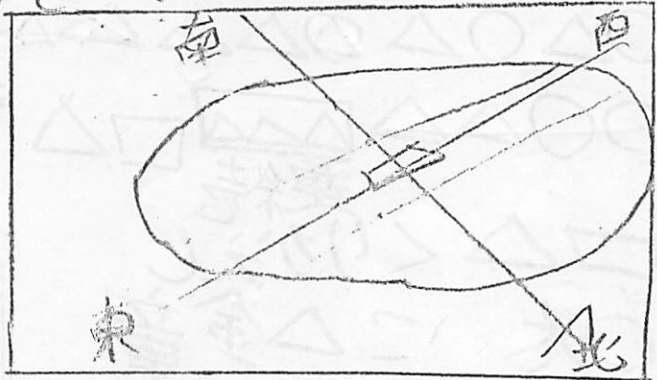
1. 土場所をきめる
 米みんをかり走れ
 スヤースかてきる所
 をえらぶ

①

運土場

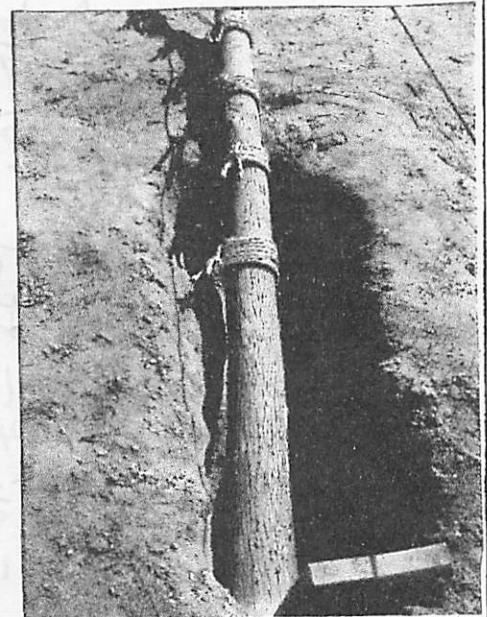
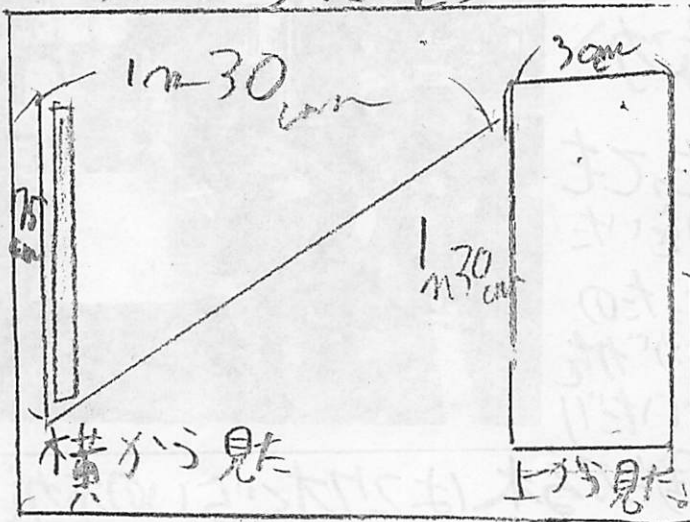


2. 東と西の方つに削けてしめる



3. と中で長さをはかりながらしめる

4. 1.倒れたら根をつける



【使う道具】

1. スコップ 2. 穴ほり用のスコップ 3. すなをかける道具

【活動名】 かり又作り

【執筆者】

悠里

1. 竹を七刀てくる

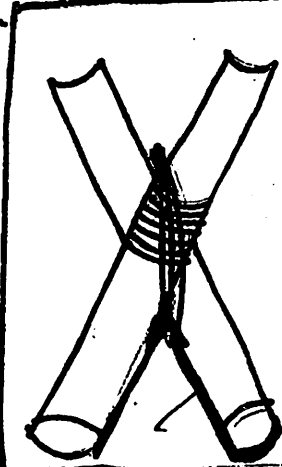
2. 1番は2m58cm 2番は3m55cm
3番は4m50cm

3. 1番は2mのところ、2番は3m

3番は4mのところまでゆるくむすぶ

※ 竹を図のようにクロスし横とたて
にしてなわでむすぶ

4. 1回ひらいてひらく
かどづかをとしがめる



5. 木主木公を1回上げてちょうど
かたしがめる

【使う道具】

メジャー

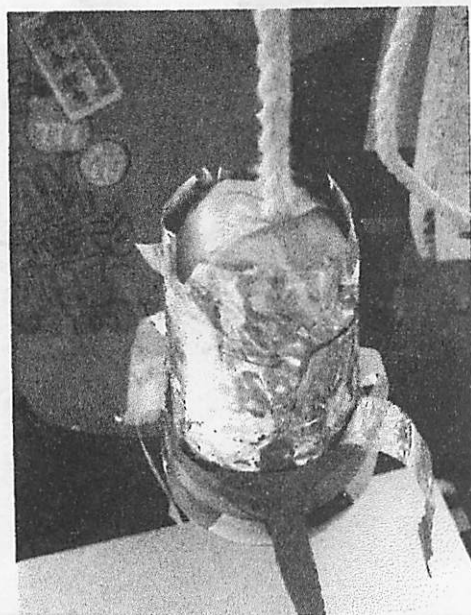
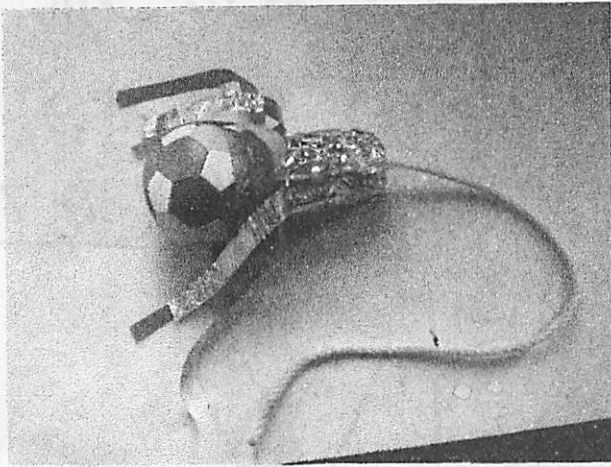
材料

竹・なわ

【活動名】 手木公をつくる

【執筆者】 栗木 まき

1. かみコップの下の戸所に穴をあける
2. かんじょうたひもをとおして、ますぎ
3. 糸紙コップの中にねんどを入れる
4. 糸紙コップの上の方にボールをおいてテープでとめる
5. ビニールテープでリボンをつけていく
6. 糸紙コップにキラキラのテープを目立ようにくっつける
7. これで手木公のかんせい



注意

1. 糸紙コップにひもを通すとき、中の方でますぎのをわすれないようにする。ますぎがなからたらひもがとれる。
2. ボールは、やわらかいボールを使う。
3. がムテープは、しっかりはらないと、ボールがとれる。
4. ひもは、かんじょうたひもにする。
5. リボンは、あまりつけすぎると、からまるときがある。
6. ねんどは、大めにしたほうがいい。

【使う道具】 糸紙コップ、ボール、リボン(色々)
かんじょうたひも、がムテープ、キラキラひかるもの
ねんど、ビニールテープ

【活動名】

手松をつくる

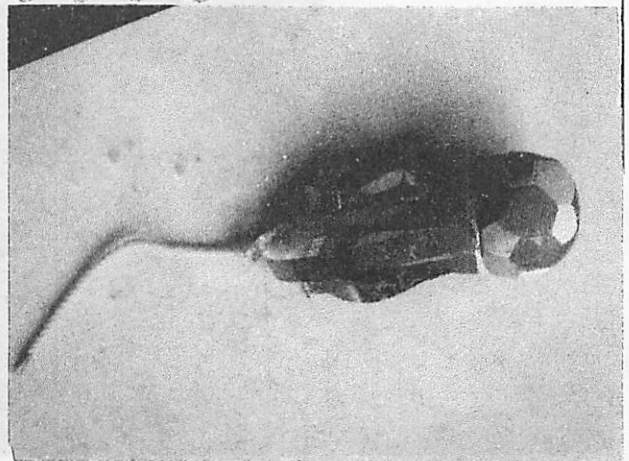
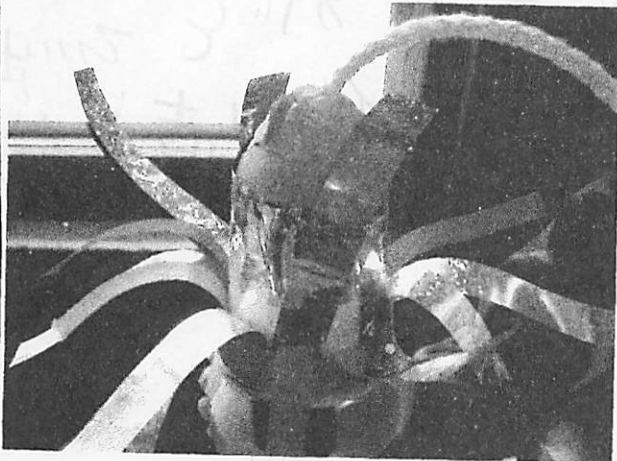
【執筆者】

ももか

1. コップのそこに穴をあける
2. ひもを通す(通した後むすぶ)
3. おもり(おもり)をコップに入れる
4. コップの上にボールをおく(ガムテープでとめる)
5. 自立つようにリボンをつけたす
6. 手松の完成

注意など

1. ボールはかんじょうにはまれないようにとりつけよう
 2. コップがやぶれて途中でこわれるかのうせいがあるのでそれをふせぐにはかんじょうな物にする
 3. おもりの重さは重すぎのは×。自分で重さが軽すぎ
- て調節しよう。



【使う道具】紙コップ、ガムテープ、ボール(紙コップにあうもの)、おもり(ねん土など)

【活動名】

手松を作る

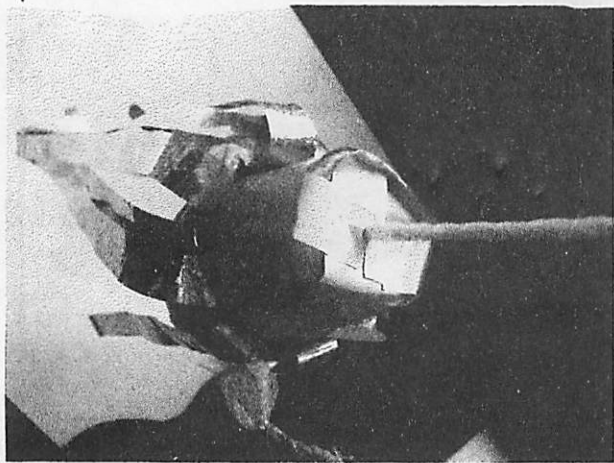
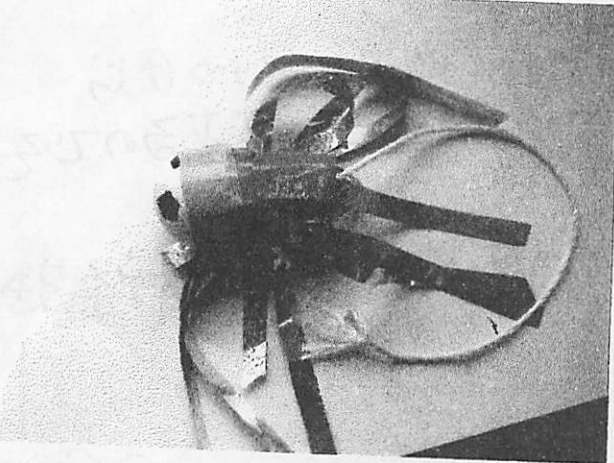
【執筆者】

綾太

さいしよに紙コップのろこに穴を開けろれにち
 もを^通して紙コップにつっかけるようにむす
 びます。そのちもをせったいぬけないようにする
 ときは、セロハンテープで直めます。その上からぬ
 ん土をいれアトレを入れます。その次に、ホ
 ールをテープで紙コップにつっながします。
 それかいてきたらリボンをつけて
 終了はります。

注意

ボールと紙コップをくっ
 つけるときに何回
 ちまかないとボールが
 ぬけて紙コップ
 の中身がとち出
 してて作り直さな
 いといけなくな
 ります。



【使う道具】

紙コップ かんじょうなちも ぬん土 アトレ
 ガム テープ ボール リボン きり さつうのテープ

【活動名】

手木松を作る

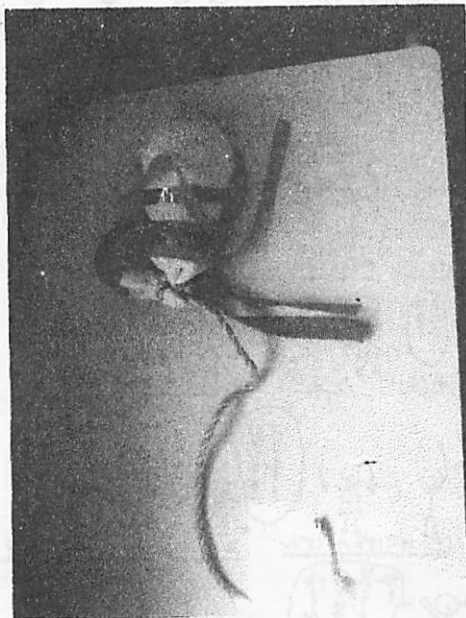
【執筆者】

ナナ

1. 紙コップの底に穴を空ける。
2. 穴にひもを通して結び固定する。
3. 紙コップの底にねん土、その上にスポンジを入れてその上からくつ下をかぶせる。
4. 最初のひもとくつ下の余った所を結びくつ下がとれないようにする。
5. くつ下の上から目立つようにリボンなどをつけて完成。

注意

・かざりが紙テープだとすぐやぶれるのでリボンにするか、ビニールテープ(色付き)にするといい。
手で持つひもがとれることがあるから、しっかり固定する。
・ねん土の量が少なすぎると飛ばないので自分で調節する。



【使う道具】

紙コップ、くつ下、リボン、ねん土、スポンジ、テープ

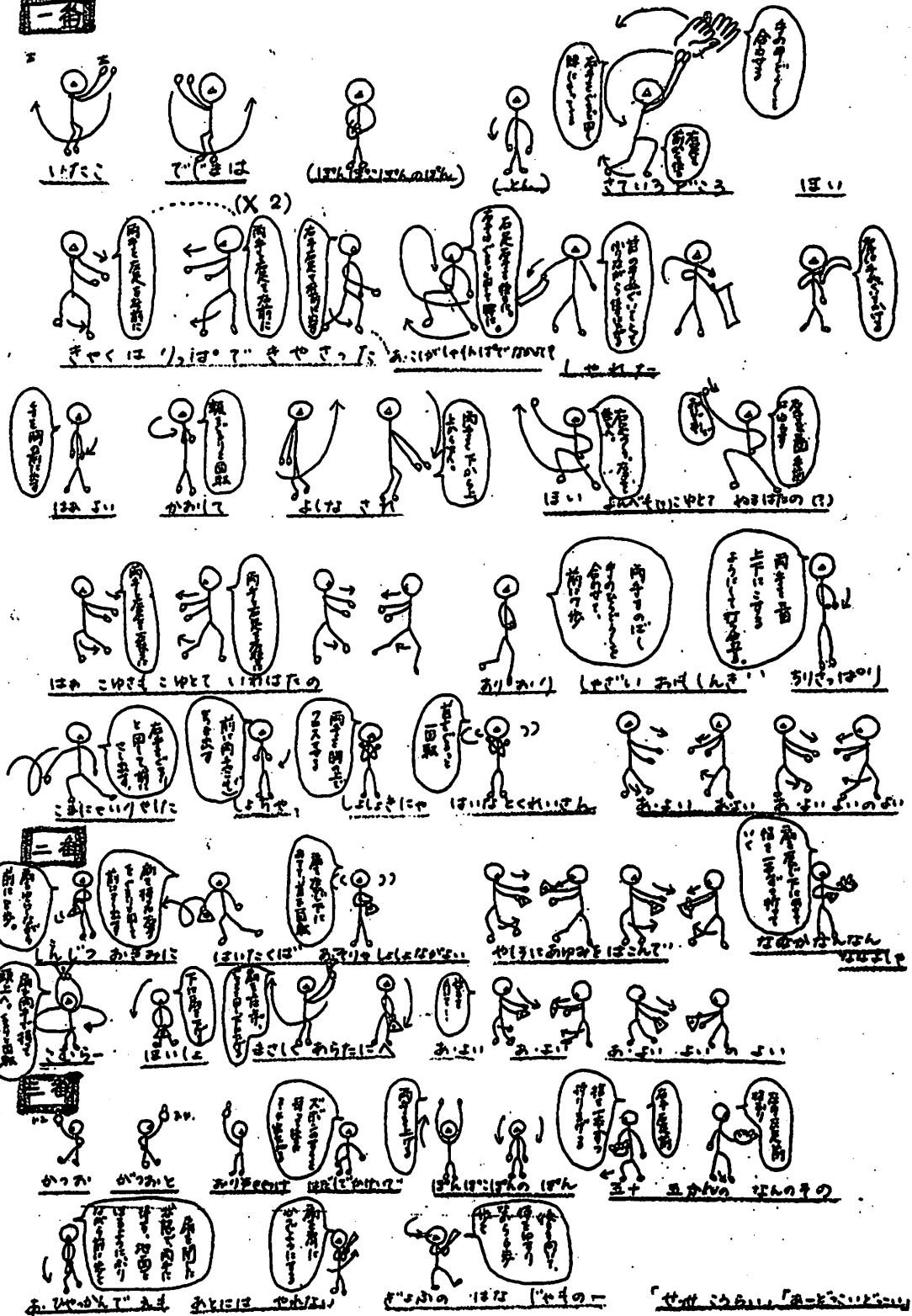
【活動名】

【執筆者】

松の下笹踊り

洋美

一輪



【使う道具】

手ぬぐい 扇 ハッピ 「松の下笹踊り」のテープ

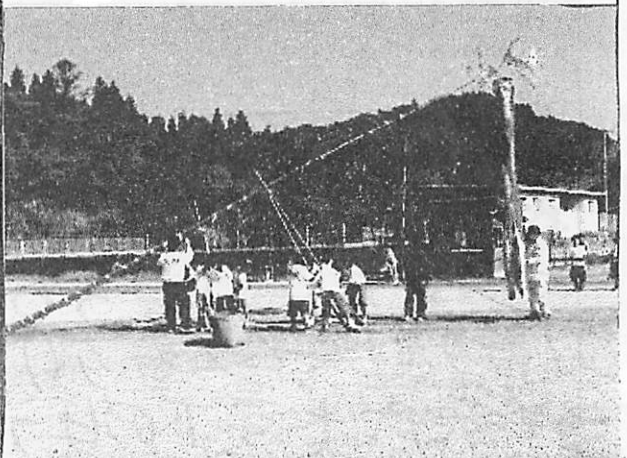
【活動名】

柱松を立てる。①

【執筆者】

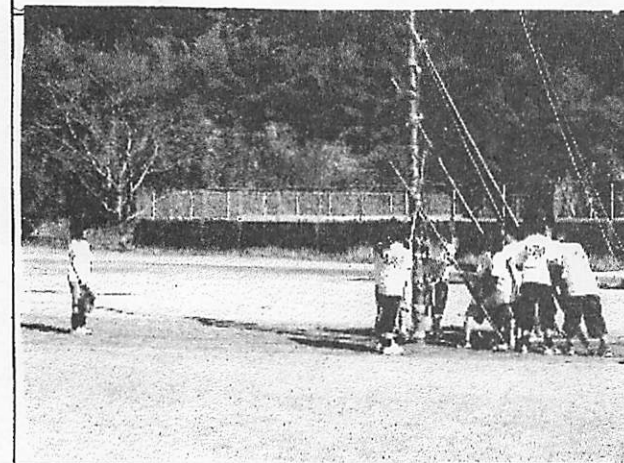
しょう生

1 一番かり又が柱松につ
て柱松の真ん中あたりから持
ち上げる



2 一番かり又がげん界まで
上げきったら二番かり又
が柱松につく。一番かり又
が支えている上の方にか
り又をかけてもち上げる。この時、一番かり又は
柱松がさがらなくなるので足を広げてかり又をか
ける位置を下にさげる。そして二番かり又と一番かり又
あがる。

3 次に三番かり又が柱松
につく。一番かり又と二番か
り又が支えている上の方にか
ける。げんかしまで上げたら
一番かり又と二番かり又の
足を広げて下に下けてまた
かける。



4 一番かり又と二番かり又が
げん界まで上げ"る。番
かり又が支えている
ときに、三番かり又の
足を広げてかり又を
とどめる

【使う道具】

柱松、かり又、ロープ。

【活動名】

柱松を立てる

⑨

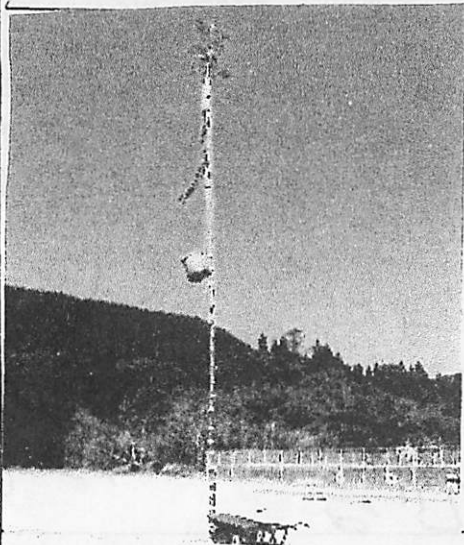
【執筆者】

しょう生

5) 次に3番かり又をけん
界まで上げて、3番かり
又がきえているうちに
1番かり又と2番かり又の
足を広げて下のほうに
かけて足をといる。



6) 80°をこえたら1番かり又
と2番かり又と3番かり又が
エアーエアーと言っている
いにあける。柱松の6m
60cmのところになわをは
る。そこから15m土地に東西南
北の、このローを引っぱておくのが大切ですよ。



【使う道具】

柱松、かり又、ロー

【活動名】

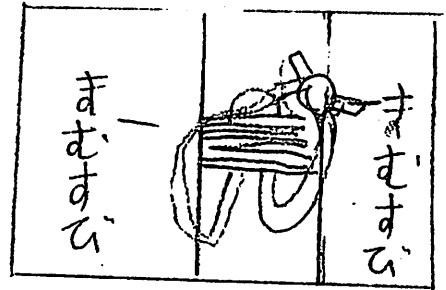
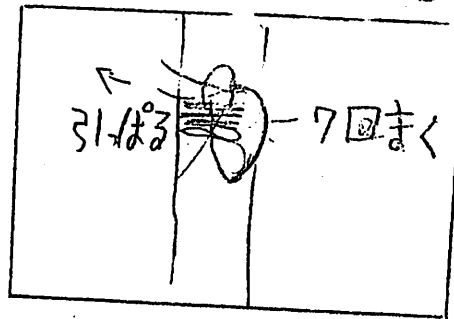
柱松作り

【執筆者】

大空

①30cmごとに柱松にしるしをつける。印をつけたところにたわらむすびをする。

②まずなわをえくこういう開くにする。そのあとおの根元から上へ七回まく。まいたあとおの中に、なわのまいたほうのなわをとおして思いっきり引っ張る。



そのあと、とおしたなわともう1本のなわでまむすびをする。これが階たんのかくぬをする。それを13たん作る*。なわはたわらむすびをするまえに、ぬらしておく(ちぎれないうように)

柱松当日

1.竹を柱松の先、ぼ°につなげ、竹の先、ぼ°にせんすをつける

△巣の下につけると、手松が五色にひっかぶることがあるので注意!

【使う道具】

せんすに なわ13本
五色に

【活動名】

投げる

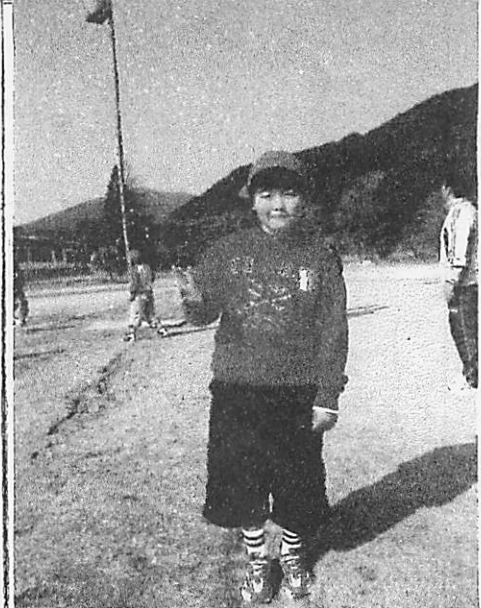
【執筆者】

りゆうたろう

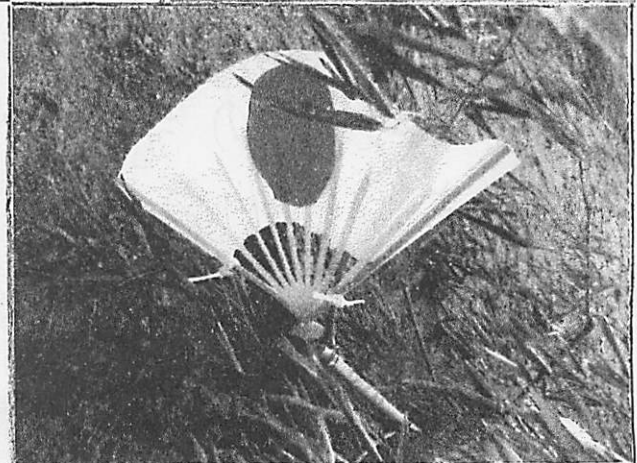
手松を投げるコツは2つある。

1つは手首をまわして投げること。かたをまわして投げるとならぬのでなるべく手首をまわして投げる。

2つ目は下から上にくるときにはなすこと。そのときに投げればだいたい真上にとんでいって入りやすい。



注意 風がふいているときは風向きと同じ方向で投げる。
烽火になった人は柱松にかざってあるおうぎがたります。



【使う道具】

手松

【活動名】

広告をつくる

【執筆者】

智佳

1. ポスター、回覧板、手紙、ホームページの班に別れる。

2. わかりやすい、目立つ、行きたくなる下書きを書く。

③何の広告か、日時、場所、メッセージ内容、発行者名、地図を、絶対書きわすれない。行きたくなる広告にするには、メッセージを工夫すればよい。目立つ広告にするには、新聞の広告から調べたらよい。

3. 下書きが終ったら、アンケート、メッセージ、あり付けを1人ずつ選ぶ、選び終ったら、アンケートはアンケート班、メッセージは、メッセージ班、あり付けはあり付けの班にわかれ、その班ごとで発表する。

4. 意見がまとまったら、自分の班にもどり、次は、自分の班でまとめたことを話し合う。そして、ポスターだったらメッセージが長くなったりしたら、矢豆くしたりする。

【使う道具】

【活動名】

広告をつくる

【執筆者】

智佳

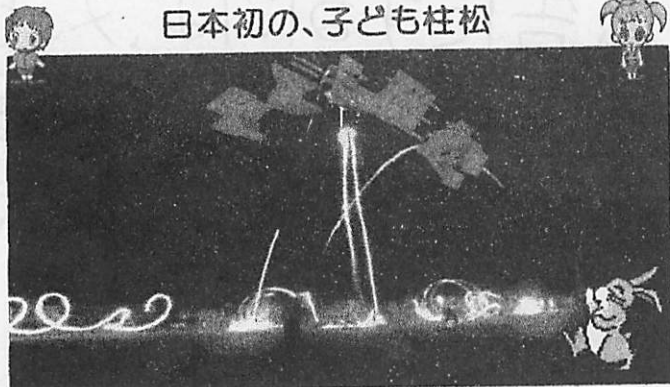
5. また下書きをして、下書きをしたのを、
コンピューターにうつ。

⑤ 地図をのせるには、1回紙にかいて
コンピューターにのせる。

6. 目立つ店、人がたくさんいる所、掲示
板にポスターをはれば目立つ。

チャンスは、その日限り

日本初の、子ども柱松



日にち 2月28日

時間 9:35~10:20

場所 市木小学校の運動場

日本初の子ども柱松を
開催します。後悔しない、
感動する子ども柱松にな
ること間違いなし。私達、
僕達のせいっぱいがん
ばる姿をぜひ見に来てく
ださい。



【使う道具】

筆記用具・白い紙

【活動名】

広告を作る(手紙班)

【執筆者】

翼

1. 手紙、回覧板、ポスター、ホームページの班に別れる

2. 分かりやすい、目立つ、行きたくなる下書きをかく

(注) 何の広告か、日時、場所、内容、メッセージ、発行者名はぜったいにはずさない
行きたくなる広告をかくには、メッセージを工夫するとい

い
目立つ広告をかくために、新聞の広告から工夫しているところを探すと良い

3. 下書きがかきおわったらそれぞれの班から本文、アンケート、わり付けの人を決めて、本文は本文

招待状

皆さん、こんにちは。
私たちは、市木小学校の3・4年生です。
私たちは、これまで『いつまでも市木の伝統を残したい、いつでも自分たちが復活させるんだ』という思いで、市木伝統の柱松について調べてきました。そしていよいよ、その調べたことを生かして、日本初の「子ども柱松」を開催します。
ぜひ見に来てください。

日時 2月28日(木)

AM9:35~AM10:20(雨天順延)

場所 市木小運動場



内容 松の下笹踊り・子ども柱松

連絡先

串間市立市木小学校

電話 0987-77-0007

おまちしております。

【使う道具】

【活動名】

広告を作る(手紙班)

【執筆者】

翼

と、アンケートはアンケートと、わり付けはわり付けのように集まって、それぞれの班の本文、アンケート、わり付けについて発表しあう

4、意見がまとまったら自分の班にもどり、まとまったことを発表しあう。手紙だったなら本文の字をなるべく多くかいたりしなければいけないから本文をながくしたりする

5、次にもう一度下書きをして、その下書きをパソコンに打つ

④注 本文を打つ人、アンケートを打つ人、連らく先や日時を打つ人などと分かれて、打つと良い

地図をのせるには、地図をかいてパソコンにのせる

6、PTA、お世話になった人などの数だけ印刷し、ふうとうに広告をいれ、おくる人の住所、名前をかき、うらに小さく「市木小3.4年」とかく。そしてその字を油せいペンでなぞり、おくる。

【使う道具】

紙、パソコン、地図、ふうとう、油せいペン

【活動名】

本番の流れ①

【執筆者】

大空

1. 9:25 集合

↓じゅんび

2. 9:35 スタート

① 竹をつなぐ

② かざりつけ

・五色

・せんす

3. 9:55 柱木公スタート

① あいさつ

② 「かり又につけ」(大しょうぐん)

③ 「一番かり又行くぞ」 「オー」

「ア-エ-イトナー ア-ヨ-イトナー」と言って柱木公をたてる。

④ 「二番かり又行くぞ」

「ア-エ-イトナー ア-ヨ-イトナー」と言って柱木公をたてる

「三番かり又行くぞ」(北へ柱木公がたおれているとき)

「大しょうぐん」〇〇かり又北へ〇歩動け!

「1,2」と言っている。

柱木公が80°~90°までたつとかけ声を「エイカ、エ
他」にかえる

【使う道具】

【活動名】

本番の流れ②

【執筆者】

大空

⑥ たった時

(かけ声)

大しょうくん 立ったか!

他の人 立ったぞ!

大しょうくん 本当か!

他の人 本当だ!

大しょうくん たおれな'い'か!

他の人 当たりました

*声は一斉けんめいお客さんに聞こえる声

でたす。大しょうくんがかねを30回な'か'

す。他の人は、柱木公をかこんでかねがな'な'

っている間ずっともくそうする。

⑦ ささおどり

着がえる→おどる

⑧ 手松なげ

*まず大しょうくんがなげる

△入がな'な'った人は柱木公をのほ'か'な'い'と

【使う道具】

【活動名】

本番の流れ③

【執筆者】

大空

いけない。

登って手木公を巣に入れたあと...

太この音にあわせてたいじょう

あいさつ

柱松終りょう。

【使う道具】

柱松調べ
発表原稿

スライド 1

子ども柱松

スライド 2

柱松が伝わる

柱松はどこから伝わったんでしょうか。

スライド 3

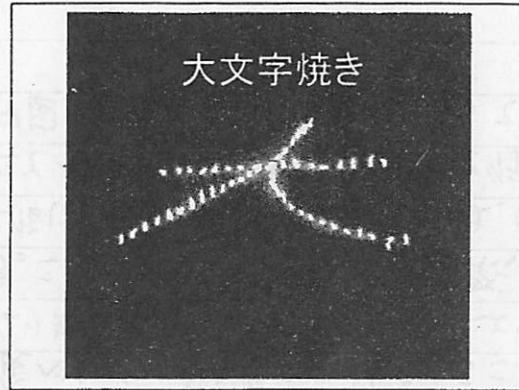


実は、柱木公は中国から伝ったものなのです。

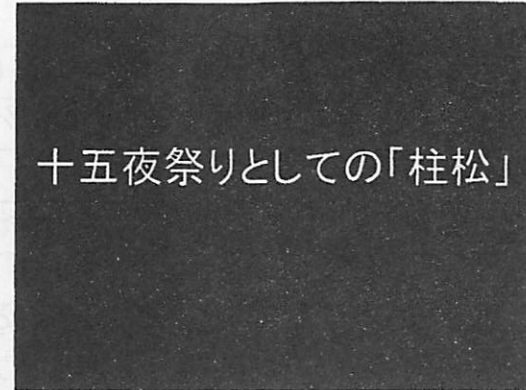
スライド 4



昔の日本の人々は、かりをしていました。人々は、えものを探して、住む所を点々と、かえながら暮らしていました。しかしこのようには、暮らし方をしている冬になると、えものがとれなくなると大変なまってしまいました。



みなさん、京都の大文字焼きを知っていますか。実はあれは、柱木の一種ともいわれているんですよ。なぜ、なのかわかりませんか。私は、火を使うからかあと思っています。

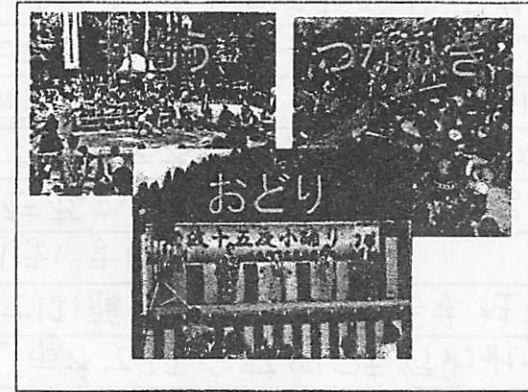


柱松は旧暦の八月十五日にあるお祭りです。なぜ、八月十五日にお祭りをするのかというと、その日が、一年で一番月がよく見えるからです。



昔から月は、自然の代表として、親しまれてきました。自然の中に神様がいて、信じてきた日本人にとって、7月は神様の月でした。

そのお月様がよく見える秋の最中の八月五日にその一年の作物の感謝と、来年へのいのりをこめて行われるようになりました。



八月十五日のお祭りは、火祭りだけではなくありません。みなさんよく知っているすもう、なひき、おどりもあります。おどりは市木では、松の下ささおどりがありますよね。

この祭りは別に特別なぎじゅつの伝しょうの場ではなく、神への感謝、地区のまとまりのために行われてきたということです。

市木の柱松の流れ

市木の柱松の歴史について言説明します。



海北・中福良
平田・古都

石波

郡司部

市木の松は昭和の後半に、郡司部で1つ平田・海北・古都、中福良に1つ、石波に1つ藤に1つありました。市木では合計四つも行われていました。でも、今では、藤方式で行われる市木柱松が1つになってしまいました。

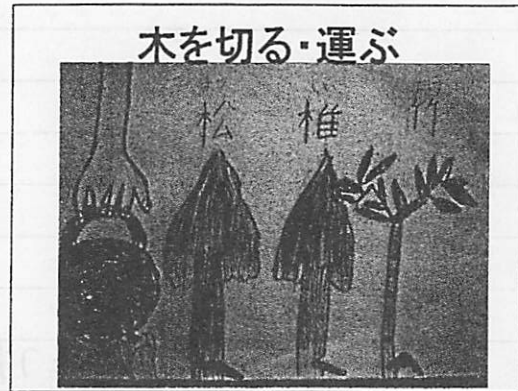
なぜ、柱松が少なくなってしまったかと言うと、多くの若い人たちが市木をはなれてしまったからです。今行われている柱松は、十六年前に川崎永伯さんが呼びかけられて、また行われるようになって、今にいたるそうです。今の柱松は、見せ物や観光用ではなく、古いしきたりを守って行われています。「市木に活力がなくなったら、柱松は終わる」と言われているように市木の人が力を合わせて行われる祭りです。

市木柱松の運営の仕方

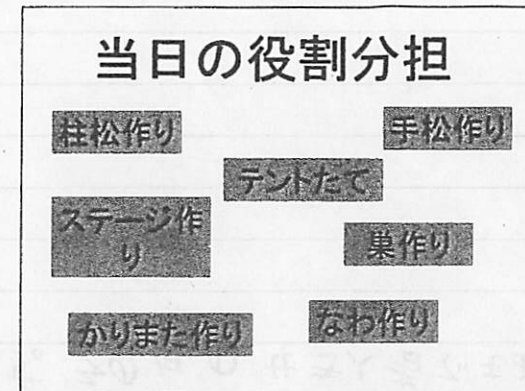
ぼくたちは柱松の運営について説明
します。まず前日までの運営の仕方につい
て説明します。

大將軍

まず大將軍を決めます。大將軍とは
柱松のリーダーで人々の役わりを決め
る人です。その年のせき人者でもありません。

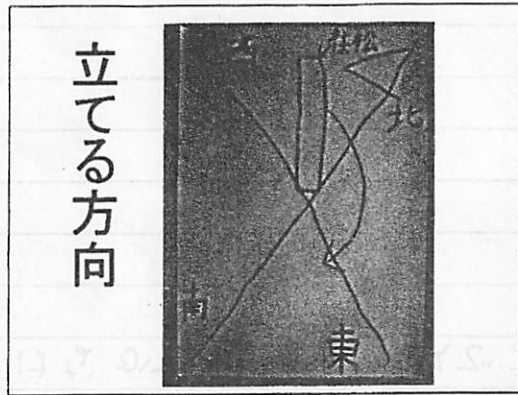


次に木を切りに行きます。切る木は松椎竹です。切るときも運ぶときも必ずかねをならします。なぜかねをならすのかというと神様が通りますよ、とみんなに知らせるためです。

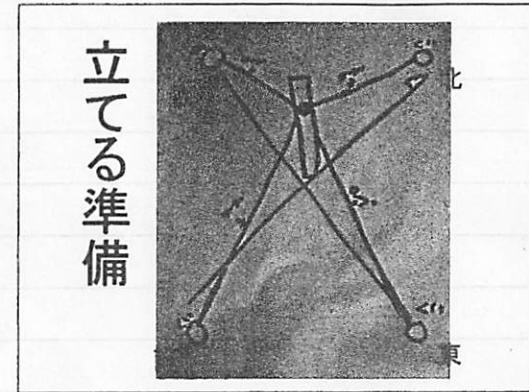


それから、当日の役割分担を決めます。役割は、柱松作り、手松作り、テントたて、ステージ作り、かり又作り、巣作り、なわ作りの7つです。

最後に宣伝をします。ポスター、新聞記者、テレビ、かいらん板、などを利用して宣伝します。毎日百人以上の人が市木だけでなく市外からもいらっしゃいます。



次に柱松の立て方を説明します。柱松を立てる向きはシヌマ。つまり柱松は北西から南東へ向けて立てます。



まず柱松の上のテーフをまきつけて東西南北に引っ張ってくいどめします。次にろつ
の大きさのかり又を用意します。これで準備は、系冬わりです。

立てる役割

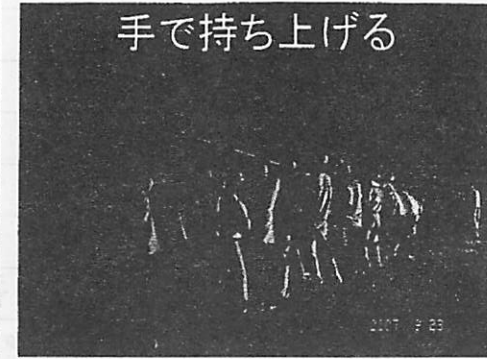
ロープを引っぱる人

柱松を立てる人

かけ声をかけて鐘をならす人

この時の役わりは、三つあります。
ロープを引、はる人、柱松を立てる人、かけ
声をかけながら鐘を鳴らす人です。

手で持ち上げる



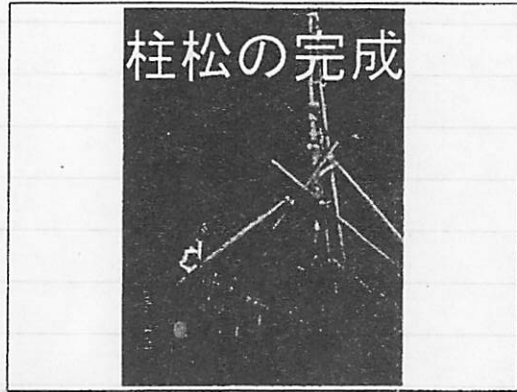
まず、人の手で持ち上げます。



一番かり又をかけます。次に2番かり又をかけて持ちあげます。



最後に三方向からかり又を使って持ち上げていきます。この時にとても大切な役わりが、かねをならしてかけ声をかける人です。この人達がいなくて立てもうまくいかないか、か決まります。



かねを鳴らす人にあわせてロープをゆるくしたり、ひきぱったりしてまっすぐになるように調節をして完成です。



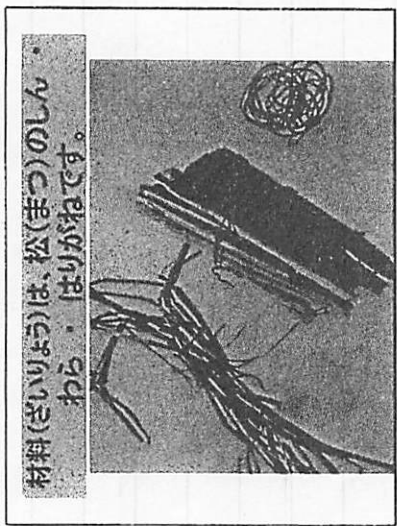
柱松の巣の中に手松が入ったらおしまいです。巣の中に一番に手松を入れた人を一番火としいいます。

一番火の人は柱松の上のがざってあるおうぎがもらえます。

大変名誉なことです。

手松（てまつ） の作り方

私たちは、手松の作り方を調べてきました。
手松の作り方を紹介します。



材料は、松の木のしん、はりがね、わらです。



まず松の木のしん、十本くらいのたばをはりがねでとめます。



次に、わら30本ぐらいを2つに分けます。



そして、そのわらで松をはさみます。



その上からはりがねをまきます。



そしてわらをおりかえします。



それから、3~4本をねじったものをまきつけていきます。



短くなったら3~4本ずつつけ加えます。



そして、わらをより合わせていきます。



さいごに、先をむすんでかんせいです!!

柱松 (はしらまつ)
の作り方

次に柱松作り班が調べた柱松の作り方をしょうかいします。



柱松に使(つか)う主(ま)な材料(ざいりょう)は、松(まつ)、竹(たけ)、椎(しい)の木(き)な
おなど(な)です(す)。



これは柱松(はしらまつ)を作(つく)っている人(ひと)達(たち)です(す)。



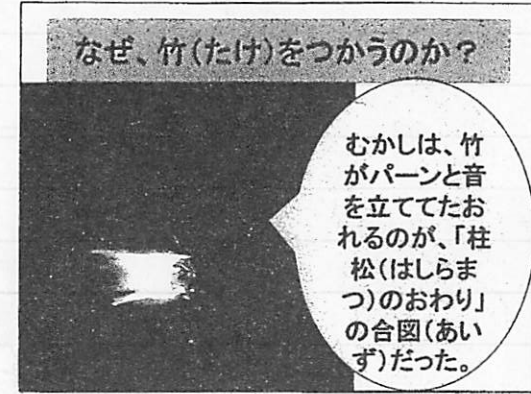
柱松の組み立て方は、一番下に松がきまあその上に木椎の木をなわでしばって固定します。その上に竹を椎の木と同じように固定します。



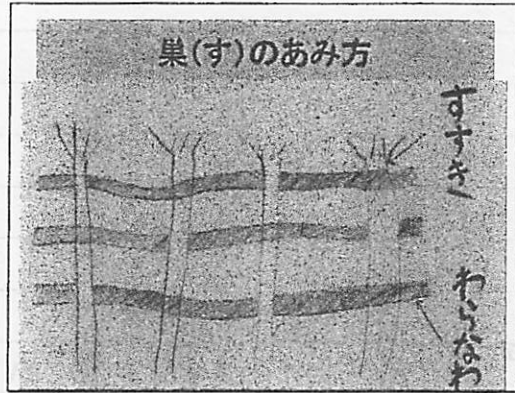
なわは、木と木をつなぐだけじゃなくて、(はしご)のかわりにもなります。なわをしはる間かくは、人が、登れるくらだそうてす。



この作り方は、藤方式でもそれと中福良方式があります。これは松の周りに7本の糸田い竹を付けるというものです。



なぜ竹を使うかというと昔火がなかったので竹を使うようになりました。竹は火がつくとパーンとはじけて花火がおりになるからです。



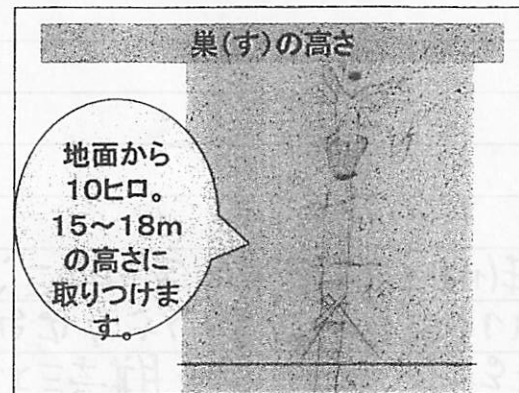
手松を投げこおかごは巣と いいます。
 次はその巣の作り方をしょうかいます。
 材料は、すすきと細いわらなわです。
 まず、すすきとわらなわでたたみをあおようにしてあんで
 いきます。



そして、巣の中にわらくずをつめて、花火をつめます。
 火がついたら、巣が明るくもえあがるようにえんしょう
 するのです。



次に柱松の上の部分に巣を取り付けます。
最後に柱松を立てて完成です。

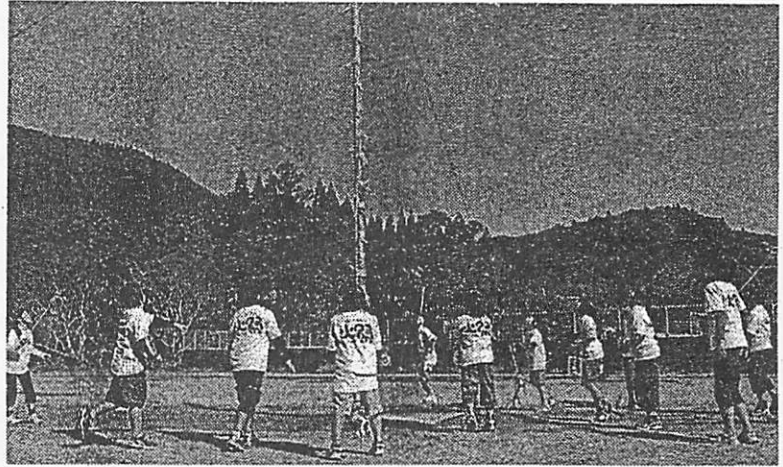


巣は地上から10ヒロ、いまの長さでは15m—18mに
取り付けています。年ごとに高くしたり低くしたりして調成します。

おわりに

「柱松」受け継ごう

串間市木小児童 伝統の祭り再現



「子ども柱祭」を披露する市木小の子どもたち

串間市市木地区に三百
年前から伝わる「市木柱
松」を受け継ごうと、市
木小（濱砂雅文校長、二
十八人の三、四年生十
三人が「子ども柱祭」を
二月二十八日披露した。

校庭で実際の祭りの手順
通り進行し、見物に訪れ
た市木地区住民から温か
い拍手が送られた。
市木柱松は無病息災や
五穀豊穡（ほうじょう）
を願う十五夜行事。一時

途絶えていたが、地区住
民が一九九二年に復活さ
せた。毎年九月に開催さ
れるものの、地区の少子
高齢化で後継者不足に悩
まされている。
市木小の児童たちは、

日本各地の伝統的な祭り
を学習する中で地元祭
りを引き継ごうと決め
た。これを受けて地区住
民が指導、祭りの手順を
学んできた。

同日は重い松の木の代
わりに軽い杉を使い、火
を付けて投げる「手松」
は、ひもを付けたボール
に火をイメージした装飾
を施した。児童たちは
「エイトナ」という掛
け声に合わせて高さ約十
二メートルの柱松を真すぐに
立て、「松の下筐踊り」
を披露。続いて手松をぐ
るぐる回してかごに向け
て一斉に投げ上げ、かご
に入る度に大きな歓声が
沸き起こった。

「一番火」を投げ入れ
た四年生の山下龍太郎君
（〇）は「入った時はうれ
しかった。大人になったら
本当の柱松でも一番火を
入れたい」と喜んでい

指導した市木地区青少
年育成協議会長の川崎永
伯さん（右）は「これまで
立派にできるとは思わな
かった。市木を離れても
祭りの日は帰ってきて参
加すると話しており、後
継者として期待したい」
と目を細めていた。

～ あとがき ～

ここにまとめました「子ども柱松」のすべては、子どもたちの手で作られたモノです。実際に使われた木も、山へ行って実際に子どもたちの手で切ったものを、子どもたちが担いで学校まで持って帰ってきたモノです。木に施してある縄飾りも、柱松全体の流れや儀式、踊り、手松、広告に至るまですべてのモノを子どもたちが、学習の一環として授業を通して作り上げていったモノです。

私は、ここ市木伝統の「柱松」の心は、「和（輪）」であると思っています。現在の世の中では、「個」が優先され、公の「和」を軽んじる風潮さえあります。そんな中であって、ここ市木では、人々が声を合わせ、心を合わせ、力を合わせて、初めて可能となる本当におもしろい「柱松」というお祭りを、遊びを脈々と受け継いで来られた。それは、まさにここ市木が故郷の誇りとして、故郷の力の源として何よりも「和」を重んじてきたからこそであると考えます。

今回「柱松」を題材に学習することを決めた背景には、このような「和」の大切さを感じてもらいたい。「和」とは何か、故郷市木の「心」を感じてほしいという思いがありました。子どもたちは、この学習を通して、多くのモノを学んだことと思います。声を合わせ、心を合わせ、力を合わせ友と何かを作り上げる喜び。課題を見つけ、調べ、解決していく力。そして何より故郷市木が育ててきた「心」。

そんな子どもたちの学習を、「柱松は、こうなんだ。柱松はこげんせんないかん。」と伝統を教えるという視点ではなく、あくまでも学習の一環として取り組んでいる子どもたちに「柱松は、こんな風だよ。それじゃあ、君たちならどうする？」といった風に、ときには教師のように、ときには縁の下での力持ちとしてこの学習を支えて下さった学習ボランティアの地域の皆様には、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

私は、必死になって「自分ごと」として学ぶ子どもたちの姿を見て、10年後、20年後にこの子たちがいつかやるであろう「柱松」を本当に見てみたいと思いました。本当に素晴らしい子どもたちです。可能性を無限大に秘めています。彼らは市木の光です。この光たちが将来どんな未来を見せてくれるのか楽しみでなりません。

「市木の光たちよ、もっと輝け！！」

平成20年3月

3・4年担任 下石